

# 市担当者による担い手農家への丁寧な説明により、農地の集約化を実現(富山県射水市稲積地区)

## 地域の概要

水稲、大麦、大豆を作付けしている平場の水田地帯。ほ場や水利などの耕作条件が良く、早くから担い手が積極的に農地集積を進めてきた結果、ほ場の分散が生じていた。

## 取組の成果

担い手への集積率:[取組前]91% [取組後]92.2%  
担い手が利用する団地数:[取組前]30ヶ所 [取組後]8ヶ所  
担い手が利用する団地の平均面積:[取組前]0.7ha/団地 [取組後]8.1ha/団地



## 取組のポイント

### 集落営農組織の法人化を契機に集約化を推進

担い手のほ場が分散し、非効率な農業経営となっていたが、担い手の1つである集落営農組織が法人化する機会を捉えて、地区内の担い手同士による農地調整(集約化)の取組を進めた。

### 市担当者による事前の調整

市の担当者が中心となり、事前に個々の担い手に説明し合意を得た上で、人・農地プランの話合いの場で地権者を交えて話し合う方法をとったことで、意思決定・合意形成がスムーズに進められた。

### 農地中間管理事業の活用

農地中間管理事業を活用することで、地域集積協力をほ場整備(自力施工で畦倒し等を実施。)に活用し、地域農業の更なる発展を図っている。



〔農地調整(集約化)の状況〕